

# 公 開 講 座

令和元年 10月20日 日

13:00 ~ 15:30 (12:30 開場)

会場：放医研重粒子治療推進棟 2 階大会議室 (定員 120 名)

13:10 ~ 13:50 **被ばくと乳がんリスク – 最新の研究成果から –**  
柿沼 志津子：放医研 放射線影響研究部長

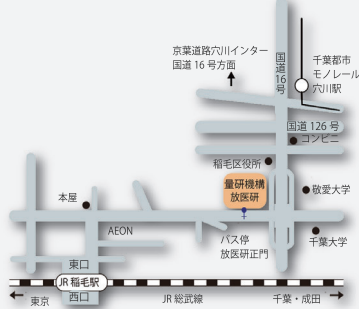
13:55 ~ 14:35 **重粒子線治療 – 前立腺がんを中心に –**  
辻 比呂志：QST 病院長

14:40 ~ 15:20 **体の中から放射線をがんにあてる  
– 古いけど新しい標的アイソトープ治療 –**  
東 達也：放医研 分子イメージング 診断・治療研究部長

## 放医研へのアクセス

ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。

- 徒歩** JR 稲毛駅東口より約 12 分
- バス** JR 稲毛駅東口 2 番乗り場より乗車  
→「放医研正門」下車  
\* 現金の場合のみ 100 円  
稲 31：山王町行  
稲 33：ザ・クイーンズガーデン稲毛行



## お問合せ

量子科学技術研究開発機構  
量子医学・医療部門 研究企画部  
TEL：043-206-3193  
E-mail：h31koukai@qst.go.jp  
★詳細はホームページで



入場無料  
当日受付



# 公開講座

令和元年 10月20日(日) 13:00～15:30 (12:30開場)

会場：放医研重粒子治療推進棟 2階大会議室 (定員 120名)



## プログラム

13:00～13:10

### 開会挨拶

中野 隆史 量子科学技術研究開発機構 量子医学・医療部門長

13:10～13:50

### 被ばくと乳がんリスク－最新の研究成果から－

柿沼 志津子 放射線医学総合研究所 放射線影響研究部長



2人に1人ががんになります。その要因は主にタバコや食事などの生活習慣の影響が大きいそうです。がんになるリスクは、放射線被ばくでどのくらい高くなるのか、そのリスクを小さくする方法はあるのかについて、動物を用いて研究してきました。今回は、被ばく後の乳がんリスクについての研究から、被ばく後の出産経験の有無によってリスクが変わることや、放射線を少しずつ被ばくする場合はリスクはあまり高まらないことが分かったので紹介します。

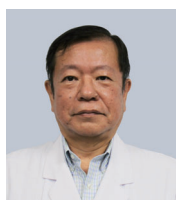
13:50～13:55

### 休憩

13:55～14:35

### 重粒子線治療－前立腺がんを中心に－

辻 比呂志 QST 病院長



重粒子線治療は副作用が少なく、効果が強力なとても優れたがんの治療です。稲毛にある旧放医研病院は今年からQST病院と名前が変わりましたが、世界に先駆けて積み重ねてきたこれまでの実績をもとにこの治療を広く普及させるための研究開発を続けています。公開講座では前立腺がんを中心にこれまで上げてきた成果についてご説明するとともに、現在私たちが取り組んでいる研究課題や今後の展望についても紹介します。

14:35～14:40

### 休憩

14:40～15:20

### 体の中から放射線をがんにあてる

#### －古いけど新しい標的アイソトープ治療－

東 達也 放射線医学総合研究所 分子イメージング診断・治療研究部長



核医学治療・RI内用療法という治療を聞いたことはありますか？放射性ヨウ素-131から出る放射線を用いた甲状腺がんやバセドウ病の治療はその代表例です。日本でも古くから行われていますが、近年、多数の核種や製剤が登場したことで、診断と治療を融合した「標的アイソトープ治療」という新しいコンセプトの治療法に進化してきました。この講演では、欧米での標的アイソトープ治療の現状と進展や、日本の現状とQST放医研の取り組みを紹介します。

15:25～

### 閉会挨拶

内堀 幸夫 量子科学技術研究開発機構 量子医学・医療部門 研究企画部長